

NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

Vol.45

発行日 2003年3月31日
発行者 NICE 沼津国際交流協会
(企画広報部会)
所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所地域づくり推進課国際交流室内
☎055-934-2529



平成14年度 後半期活動アラカルト

インド青年来沼

11月19日(火)より26日(火)までの8日間、インド青年19名と引率スタッフ3名の計22名が来沼されました。インドの受け入れは初めてです。沼津在住のインド出身の石井シュクリナさんに依る2度の勉強会からスタートしました。

インド共和国は日本の9倍の広さを持ち、350以上の言語と文化も宗教も違う8億4千万以上の国民のいる、世界で2番目に大きな国です。東インド、西インドと南北インドに分かれ、主要な言語でも十数あります。公用語は英語とされています。

勉強会では、食事のこと、生活習慣等が具体的に話され、ホームステイを受け入れる方々からは熱心な質問がされていました。シュクリナさんは丁寧に答えて下さいました。



交流のタベではぎこちなくしていた青年達でしたが、陶芸教室では熱心に絵を描いたり、ろくろを回して製作していました。市長表敬、農協での講義、みかん選果場の見学、早朝からの青果市場の研修等々、丁度気候の変化が激しい時期とぶつかり体調を崩した青年もいた様子でしたが、各研修先では活発で専門的な意見、質問が出ていました。



2泊3日のホームステイは食事等でご苦労があったようでしたが、11月23日の国際交流フェアには何組かの家族が参加されて、着物を着たり、筆を持って字を書いたり、花を活けて日本の文化を味わっている様子でした。



歓送会では、インド青年のダンスや歌、「炭坑節」や「ようこそ沼津」の踊りを一緒に何度も踊り楽しい一時でした。毎日富士山が見えないと残念がっていた青年達でしたが帰途につく昼頃に雪化粧をした姿をみせ、彼らを見送っている様でした。



インド青年との交流は今までの青年達とは多少違って戸惑いを感じるころもありましたが、相互の文化の違いを認め合い理解して行くことを改めて考えさせられ、招聘することの意味を問い直す良いチャンスではないかと思いました。



国際交流フェア

晩秋の沼津。やわらかな秋の日差しが降り注ぐ中、去る11月24日の日曜日、沼津市島郷にある「学習院遊泳場」で、沼津国際交流教会(NICE)による国際交流フェアが開催された。前日は雨模様のなか準備を行ったが当日は心配していた天気もまずまず。うす曇りではあるが時折やわらかい晩秋の日差しが差し込む絶好のイベント日和となった。この国際交流フェアは在住外国人と市民が触れ合うNICE恒例の行事となっており、今回もさまざまな在住外国人の方に参加していただいた。各国の文化を紹介すると同時に、その国の料理を試食できるブースを設け、また特設ステージでは各国の民族舞踊が行われた。

また日本人ブースとして、日本食、華道、着付け、箏曲、茶道などが設けられ、外国人にとっても日本文化を知る良い機会となった。特設ステージでは、インドネシア、タイ、トルコ、イランなどをはじめとする各国の踊りが披露され、飛び入りで楽しむ観客も現れ、非常に盛り上がるイベントとなった。



今回は、アセアン青年招へい事業の一環として沼津に滞在していたインド農業青年達もホストファミリー達と数多く訪れいっそう賑わいのあるものになった。在住外国人のブースはインド、タイ、ペルー、中国、イラン、インドネシア、フィリピン、トルコの8カ国が参加。それぞれお国自慢の料理が訪れた人達に振舞われた。みなそれぞれ、普段口にしない珍しい料理を堪能したようだ。



ふれあい部会

スポーツ de 国際交流

国際スポーツ交流が、3月9日(日)勤労者体育センターにおいて行われました。

ふれあい部会を中心としたスタッフ、日本人54名、外国人15名の総勢69人が、バドミントン、ビーチボールバレー、バレー、バスケット、サッカー、ドッジボール等で汗を流し、最後は全員参加による10人11脚、綱引きで大いに盛り上がりました。

ティー・タイムでは、幼い子供から大人まで年代を問わずに和気あいあいとした雰囲気の中で会話ははずみ、会員同士、また在住外国人との親睦をはかることができました。

「僕の子供は4年生だけど来年は一緒に行こうかな」という声や、「僕もぼくも……」と参加したがってる4、5歳のお子さんの声も聞こえてきました。次年度は、幼児でも楽しく参加できる種目も考えるのはどうでしょうか？

整理体操後の掃除は、余韻覚めやらずロードレースのようにハッスルして、一致団結し短時間で終わらせることができました。

みなさん、お疲れ様でした。



お国紹介講座

モンゴル

第一部はモンゴルのアージムさんです。

まず始めに、モンゴルのビデオが前方のスクリーンに映し出されました。モンゴルと言えばそう、広い緑の草原に羊や山羊などの家畜の群れ。馬に乗ってそれを追う遊牧民。パオと呼ばれる解体可能な住居。どれも日本にはない、モンゴルらしいものばかりで、遊牧民の生活に対する興味が非常に掻きたてられました。

続いてアージムさんの住んでいた首都ウランバートルについてのお話です。首都は遊牧民の生活とは打って変わって、日本と変わらず建物がたくさん建ち、バスも走り車社会のようです。アージムさんが持参した写真集が参加者に回覧され、街の様子を見て取ることができました。年に1回大きなお祭が行われ、そこでは相撲や競馬が行われるとのことでした。現在日本で活躍している朝青龍関もこのモンゴル相撲で鍛えられたのかもしれない。

最後の質問コーナーでは参加者の質問責めにあい、時間が足りなくなるほどでした。学校や税金、気候など一つ一つの質問に丁寧に答えてくれ、近くて不思議な国モンゴルについて少しだけ理解が深まったのではないかと思います。とても楽しいひとときでした。



スリ・ランカ

第二部でスリ・ランカのお国紹介をして下さったプリヤンティカさんは、現在、静岡英和学院大学短期大学部現代コミュニケーション学科に在籍していらっしゃる、園芸や読書を趣味としつつ、陸上競技の経験もあるという多方面な方です。講演では、スリ・ランカの歴史、宗教や言語の発音など、様々な内容について日本語で丁寧に紹介して下さい、最後に観客からの質問にも答えて下さいました。

観客の方に特に興味深く受け止められたと思われる内容は、内戦、カースト制度、食生活についてでした。プリヤンティカさんは、スリ・ランカには三つしかない大学の一つが、内戦によって閉鎖されたという事情や、カースト制度が法的に撤廃されたにも関わらず、身分の異なる者同士は結婚できないなどの慣習が根強く残っているという事情を紹介されました。また食生活について、以前は三食全てカレーだったのに対し、パン食なども増えてきたことなどを紹介されました。

こういった日本との環境の相違について改めて知ることにより、スリ・ランカについて少しでも多くの方に興味を持っていただけたことと思われまます。



「Year End Party参加顛末記」

我が家のYear End Partyの準備は夏休みに始まる。今年の仮装は何にしようかと、Halloweenと併せて考え始めるのである。家族各々がなりたいたいのをあげて話し合うが、ベッカムになりたい長男、東京ミュウミュウになりたい長女、Buz-zlightyearになりたい次男の調整が大騒動である。せっかくファミリーで参加するのだから、テーマを持って仮装すべしというのが池田家の家訓である。家長の強権を発動して今年は「ハリーポッター」に決めた。しかし、今度は男の子2人のどちらがハリーをやるかで、第二次池田兄弟戦争が勃発。長兄の権利を押し通そうとする長男に対して、地力の差を自覚している次男はグリラ戦術に訴えたと行った様相を呈してきた。まるで世界情勢のようだ。国連ならぬ母親の調停により、2人ともハリーになることで合意に至った。

毎年、パーティーの直前は衣装作りで忙しいわけだが、今年はスタッフ用のエプロン作りも重なって、家内はてんてこ舞いであった。部会で「その程度のものなら家内に作らせます」と格好つけた私だが、「作るのは私なのよ」と文句のひとつも言われるだろうと覚悟していたにもかかわらず、黙って作ってくれた。見かけによらず、良く出来た嫁である。

今年は2階のレストランの使用許可が取れなかったもので、1階の多目的ホールで食事からダンス、さらにはバンドのスペースも取らなければならず、スタッフは気をもんだが、実際にテーブルを配置してみると、そんなに狭くもなかった。却って、一体感が出て良かったと感じた。カラマズー交換教師のシンシアの歌やよさこい、飛び入りのダンスなどアトラクションも例年よりも豊富であった。千本プラザに会場を移して4年目、運営の仕方が成熟してきた証左であろう。その一方で、相変わらず準備のスタッフの数は少なく、駐車場係やプレゼント準備の係など少数の方に負担をかけてしまった。

仮装コンテストでは見事入賞し4連覇を果たした池田ファミリー、賞品のポインセチアをゲットした。2年連続でポインセチアを会場から盗まれた教訓から、兄妹で話し合い、父が後かたづけをしている間、「ポインセチア盗難対策本

部」を設置して警備の任にあたっていた。子供たちはいろいろな人と一緒に写真に収まり、ご満悦である。ハリーポッターの仮装に言ったときはブーたれていたくせに単純なやつらである。サンタからのプレゼントは上の2人は「とっさの一言、英会話」で、大喜び。幼稚園児の次男は目をキラキラと期待に満ちて袋を開けたところ、出てきたのは車用の藁で出来た正月飾りであった。見る見るうちに次男の口がへんの字になり、涙が瞳に溜まってくる。慌てた私は「お父さんのと取り替えてあげる」しかし、袋から出てきたのは、さらに小振りの正月飾りであった。遂に泣き出す次男。完全に逆効果である。こうして、池田ファミリーは帰りにセブンイレブンによってお菓子を買う羽目に陥ったのであった。

毎年、片づけは時間との勝負になり、後からクレームの出ないように気を使う仕事だが、今年は開始時刻を30分早めたこともあって、極めてスムーズに終わることが出来た。うれしかったのは「とても楽しかったので、来年も参加したい」と言って掃除を手伝ってくれた人がいたことだ。その一方で掃除しているスタッフを後目に写真なんぞを撮っている人もいる。人間いろいろだ。ともあれ、今年も無事Year End Partyを終えることが出来た。事務局、運営委員を始めスタッフ、参加者みなさんのおかげである。心から感謝したい。

家路を急ぐ車の中で、子供たちはそれぞれ英会話の本とお菓子の袋を胸に寝息を立てている。横では家内がぼそっと「来年は何にする？」どうやら彼女は10連覇を目指しているらしい。池田家の野望は始まったばかりであった。

(カラマズ一部会副部長 池田 力)



カラマズー便り

カラマズー留学中の小幡梓さんから、近況を綴った手紙が届きました。
 楽しいアメリカの生活とともに、私たちが日常生活の中で忘れかけている大切なことを
 思いださせてくれる、素敵な内容の手紙です。

My Stay in America

Hello everyone! This is Azusa Obata from Portage Michigan. I am enjoying my stay.

The weather of Michigan is very different from that of Numazu.

It is snowing outside right now. Today I'd like to tell you how I have been since I came here. I think I have changed so much. I'm learning many new things every day. I have made many new friends and I am grateful to have two very precious families. It was such a cold day in spite of August when I arrived at Kalamazoo airport. I was so happy that many people welcomed me. I was not only excited but also kind of sad, though. I didn't know the reason at that time. School started at the end of August. I was so surprised that Portage Northern, which I go to is very different from my high school in Numazu. Here, students can drive a car to school! And I feel students are much more outstanding than Japanese students. I think it is from their culture. I take English this semester, and we are reading, Shakespeare's Macbeth. It is so hard, but I'm trying my best to read it. My favorite class is Yearbook, because I met my best friend in this class. We enjoy spending time together.

Last semester I was a member of the school's basketball team. Actually, I didn't have fun during the season. It was such a hard time for me because I had hurt my back and everything was going badly. It was good experience for me though. Being in America has made me glow as a person. While living in Numazu, I always knew that my family and friends were precious in my life. I really understood how I had a happy home, family, and surroundings, which I thought was natural. I discovered why I had felt sad at the airport. I was just home sick. Everything was new to me, and adjusting would take time.

My American family, the Clines, and my best friend, Lisa, who I met in yearbook class, supported me a lot. I can't think about my life without them. The Clines are such a wonderful family. My American parents, Dana and Mary, are so nice. They always teach me about American life and help me so much. I really like their ways of living. If I were a parent, I would like to be like them. I don't always see my sisters, Rebecca and Erin, and my brother Michael, because they go to a college. When they come back home, I'm so excited. I usually see my little sister, Liann. I don't think that she is my little sister because she always helps me a lot. My American grandma, Jan, who hosted my mother last summer, and the Halls are so nice, too. They take care of me so much. These people have a warm heart and kindness. I can't describe how I appreciate what they've done for me. I really thank Lisa, too.

I can't believe that she was my first friend and became best friend. I love spending time with her. We hang out a lot. We go to the mall, have lunch and dinner, see movies, go to the winter formal... I can't begin to count all the memories we have made.

The other day I cooked some Japanese foods for her and her boyfriend, Alistair. He is so kind to me, too. I fixed Chirashizushi, Miso-soup, Somen-noddle, and Japanese curry. They like the Japanese foods. We are very close. I really like her. I'll miss her so much when I have to be away from her. We are sure to be best

カラマズー部会

friends forever, though.

Recently, I had the opportunity to enjoy skiing. I had never skied when I was in Numazu, so I took a lesson and my friends taught me. I have been having a problem, which is that I love American chocolate too much! I can't live without it in my life!!

Since I came here, I have been thinking many things. Recently I feel that I never know all about America, which means that I'm Japanese. I have Japanese feelings and ways of thinking, which is good because I should know about Japan as my home country. On the other hand, I can try to understand different cultures, and I think everybody can do that. It is very important for global communication.

Unfortunately, we have so many problems in the world because we have so many countries and each country has its own culture. I believe the world would be great if we would try to understand and respect each other. I have been seeking my true dream. My dream was coming here as an exchange student. Now I want to find my goal until going back to Japan. I hope everything is going to be good and want to enjoy my stay.

All my wonderful Japanese friends, how have you been? And don't worry about me. I'm fine! Mom and Dad, I miss you so much and love you forever.

Lastly, I really thank all of you who helped my dream of coming to Portage/Kalamazoo become reality. Again, the Cline family, I really thank you and love you so much. Thank you and Arigatou to everybody!



◆ Kalamazoo Delegation ◆

カラマズー高校生・市民訪問団来沼
 平成15年7月13日(日)～7月28日(月) 高校生
 平成15年7月20日(日)～7月28日(月) 訪問団

沼津国際交流協会では、姉妹都市カラマズー市（アメリカ合衆国・ミシガン州）より隔年で市民訪問団を受け入れています。今年は姉妹都市提携40周年を迎え、いつもよりずっと多くの訪問団が記念イベントに参加され、市内及び近隣のご家庭にホームステイをする予定です。

あなたもホストファミリーになりませんか？

岳陽市政府友好代表団来沼

11月14日友好都市岳陽市から葛送培副市長を団長に7人が来沼されました。

成田空港に着き、沼津に向かうバスに乗るとすぐ、「日本のラーメンを食べたい！」なんと早くもラーメンを通して日本を知り、友好を深めたい姿勢が出ていました。代表団一行のそのような姿勢もさることながら、顔を見ると同時に初めて会った人とは思えず、笑顔で手を取り合いました。手の温もりからも、「友好が深まっているなあ！」と思いました。

沼津インターで和食を！皆さん畳に座っての食事習慣は苦手な美味しい天麩羅、うなぎの蒲焼等もそこそこに膝を叩きつつ立ち上がり、ホテルに直行となりました。

実質の沼津滞在は短く、2日間でした。その第1日目は未来の沼津の片鱗を見てもらうように心がけ、いろいろな所に案内しました。

中高一貫教育スタートの市立高、何年か先の沼津駅の立体化構想、岳陽からの研修生がいる市立病院、苔むす御用邸では、わび・さびの世界へ、そして初めて間じかに見る紺碧の海。夕方、沼津市長表敬訪問、市議会議長表敬訪問、友好が更に深まるようにと代表団より、緋色の綱で編んだ豪華な縁起物をいただきました。

そして、夜は「友好の宴」と分刻みのスケジュールでした。

第2日目は肩の力を抜いてもらい、リラックスしてもらうように心がけました。

我入道の渡し舟に乗り、船頭さんの計らいで初めてカモメに餌付けをしてもらいました。たくさんのカモメたちが飛来し、岳陽市の友人たちが投げる食パンを器用にくわえて食べ始めました。これには一行も大喜び、喜びすぎて川に落ちはしないかとはらはらさせられました。早朝の狩野川の寒さも嬉しさのあまり感じなかったようです。

図書館では、ボディーソニックで脳裏をリフレッシュ、午後は首に襟巻きをして箱根の芦ノ湖遊覧をしました。

沼津での最後の夕食は中華料理で、さすがに、和食や生ものを苦手とした一行も、美味しい美味しいと言いながら名残を惜しむように夜がふけました。

翌朝早々に一行はホテルを離れ、横浜・東京に向かいました。短い滞在でスケジュールも過密になり、皆さんお疲れだったと思います。

今年は沼津から友好親善団を結成し、訪岳したいものです。



友好の宴で太鼓に興じる団員



市庁舎前にて



連続立体交差模型の説明を聞く一行



我入道の渡し

岳陽部会

春節快樂

第11回春節祭が開催されました。

如月の空に小雪舞う2月2日日曜日、第11回春節祭が下香貫のSu-Haで開催されました。中国・台湾・ペルー・イラン・アメリカなど75人の外国人と120名あまりの日本人が参加し、賑やかに旧暦の正月を祝いました。

クラッカーの音を合図に参加者全員で「春節快樂！（チュンジェ クワイラー）春節おめでとう！」と三唱し、開会しました。中国の伝統楽器である胡弓と京胡の演奏と歌、太極拳等中国の文化の紹介そして、子供たちによる日本舞踊等が披露され、会場一杯、大きな拍手がおきました。

中華点心の軽食が振舞われ、最後にお待ちかねの福引があり、大人も子供も何が当たるのか、ワクワクドキドキ……盛会のうちに閉会となりました。

スタッフの皆さま、お疲れ様でした。



一つのイベントを成功させるために、様々な人たちが関わり、意見を出し合い、協力し、ともに苦しみ、ともに楽しみ、何かを創造していく。個性がぶつかり、火花を散らし、磨かれてゆく、長短補いながら、互いを尊重するそのやさしさが、自分自身を育てていく、成し遂げた時の達成感を共有できた時そのイベントは成功だったといえるだろう。

by 暇人という名の多忙人

平成14年度派遣 友好都市中国岳陽市へ

8月に派遣された留学生 ①留学期間 ②専攻 ③抱負 ④趣味・スポーツ



加藤 剛 (かとう たけし)

- ① 1年間
- ② 中国語・中国画・中国武術
- ③ 積極的に中国の人と交流し、言葉・文化・思想など理解したい。
- ④ 音楽(ギター)・パソコン・少林寺拳法・スノーボード・サーフィン等



原 亮一 (はら りょういち)

- ① 半年
- ② 中国語
- ③ 留学する良い機会であると判断した。中国語を学び役立てたい。
- ④ 音楽(ギター)・サッカー・水泳・野球等

3月に派遣された留学生 ①留学期間 ②専攻 ③抱負 ④趣味・スポーツ



瀬下果菜子 (せじも かなこ)

- ① 半年
- ② 中国語・中国武術
- ③ 植林ボランティアで中国に行き興味を持った。友人をたくさん作りたい。
- ④ 音楽鑑賞・バレーボール・バスケットボール



加藤 祐介 (かとう ゆうすけ)

- ① 1年間
- ② 中国語・中国武術
- ③ 帰国後沼津と外国の交流に携わりたい。
- ④ 読書・音楽・バドミントン・空手



加藤 卓 (かとう たかし)

- ① 1年間
- ② 中国語・中国画
- ③ 帰国後通訳として働きたい。
- ④ サッカー



第3回中国料理教室

1月19日(日)第4地区センターにて平成14年度最後の中国料理教室が開催されました。講師の藤沢昭光さんの的確な説明で、予定の「豚赤身の酸炒め」「豆腐と松の実の旨煮」「蟹と卵の旨煮」3品の料理が瞬く間に出来上がり、おまけの2品も加わって、豪華版の料理となりました。以下レシピを1品紹介します。

☆☆☆豆腐と松の実の旨煮☆☆☆

材 料：(6人分)

豆腐2丁、松の実100g、ベーコン200g、根深ねぎ1/3本、生姜少々、ニンニク1かけ、片栗粉、サラダオイル、スープ200cc《味覇(ウェイパ)で味をつける、鶏がらスープでも良い。》

調味料：砂糖大さじ1、紹興酒少々、ごま油、醤油、塩少々

作り方

- ①豆腐をサイコロ状に切る。(切り方は自由です。)
- 沸騰したお湯に塩を少々入れ豆腐を煮る。少し煮てから水を切る。
- ②ベーコンを湯通し、みじん切りにする。
- ③鍋を火をかけ、少量のサラダオイルで砂糖大さじ1を炒め、砂糖が少し赤みがかかったら、みじん切りにした根深ねぎ・ニンニク・生姜とスープを入れる。紹興酒、きざんだ松の実、ベーコン、豆腐を入れて弱火で煮込み、醤油で味をととのえ最後にごま油を少々入れて出来上がり。



お知らせ

あなたも中国語をマスターしませんか?
～新年度NICE中国語講座～

と き：平成15年5月29日～9月11日
午後7時～8時30分
毎週木曜日 全15回
(8月14日は休講)

場 所：沼津市民文化センター 2階

受講費：会員：4,500円(テキスト代別)
一般：5,000円(テキスト代別)

クラス：初級2クラス 各25名
中級1クラス25名

申し込み

受付開始：平成15年5月12日(月)
8時30分～

電話で事務局まで(先着順)

平成15年度 沼津国際交流協会総会・懇親会

◆日時 平成15年5月17日(土)

総 会 午後6時
アトラクション 午後7時
懇親会 午後7時50分

◆会場 ブケ東海

総 会 1階 芙蓉
アトラクション 1階 芙蓉
懇 親 会 1階 ロイヤル

◆アトラクション

『楽之介ミニ独演会』(落語)
出演者 三遊亭楽之介
(静岡県小山町出身)

当日、受付にて15年度分会費を納めていただくことが出来ますので、どうぞご利用ください。